

受賞者氏名	小堀 哲夫	
所属	デザイン工学部 建築学科 株式会社小堀哲夫建築設計事務所	
受賞年月日	① 2023 年 1 月 ② 2023 年 12 月	
国内・国外	国外	
授与機関等名称	① International Design Awards ② Architecture MasterPrize	
受賞名	① International Design Awards (IDA) 2022, Silver ② Architecture MasterPrize (AMP) 2023, Best of Best	
受賞(研究)内容詳細	<p>① International Design Awards (IDA) 2022, Silver</p> <p>■ 賞概要</p> <p>建築・インテリア・プロダクト・ファッション・グラフィックの 5 部門から成り、幅広い領域において知的で持続的なデザインを発掘・評価するために、2007 年にアメリカ・ロサンゼルスで設立された国際的なデザインアワード。</p> <p>・IDA ウェブサイト: https://www.idesignawards.com/</p> <p>・受賞作品ページ: https://www.idesignawards.com/winners/zoom.php?eid=9-46302-22&fbclid=IwAR2gXQeKN8V8xzqyo6hp3RNje4P9afV5afC53bluzaLTAAP7752-JRcmSgQ</p> <p>② Architecture MasterPrize (AMP) 2023, Best of Best</p> <p>■ 賞概要</p> <p>建築・ランドスケープデザイン・インテリアデザイン・建材・写真の 5 部門から成り、世界中の高品質なデザインの評価と公開を促進するために 2016 年に設立された、優れたデザインを表彰する世界的なアワード。</p> <p>受賞された Best of Best は最優秀賞にあたる。</p> <p>・AMP ウェブサイト: https://architectureprize.com</p> <p>・受賞作品ページ: https://architectureprize.com/winners/winner.php?id=6380</p> <p>受賞作品:大和ハウスグループ みらい価値共創センター「コトクリエ」</p> <p>作品概要・コンセプト: ー現代の会所をつくる</p> <p>「創業者精神を伝え広めるためのホールが必要」という樋口武男会長(現:最高顧問)の言葉をうけて、全国に 3 箇所ある研修センターを創業者ゆかりの地である奈良に集約し、現在グループ約 49,000 人の大和ハウスグループの未来を担う新しい人財づくりのための場をつくるプロジェクトである。</p>	

設計段階に計3回開催されたワークショップの中で生まれたキーワードから、私たちはこの施設のコンセプトを「森の会所」と定めた。「森」は創業者の生まれ故郷である吉野の森の豊かな生態系をはぐくむ光・風・水の風景、「会所」は、室町時代に、身分の隔たりなく車座になって、連歌や和歌を詠んだりした文化交流・発信の場のことであり、私たちはそこから着想を得て、人々が集い、お互いに刺激し、影響し合う、現代の会所のような場をつくることを考えた。

一風・太陽・水の3つの和

人々がお互いにつながりを感じられるスケールの建築とするために、長辺が約230mある敷地を大きく三つに分節し、「風」「太陽」「水」のエリアで建築を構成している。これは、創業者が21世紀の事業として掲げた「風・太陽・水」の言葉からインスピレーションを得たものである。

自然光が入る360度開かれた500人収容の「太陽のホール」、食を通して語らう場である「風のパティオ」、創業者精神を学び、自分自身と向き合う場「水のサロン」、その三つのエリアがメビウスの輪のように絡みあう動線につながること、有機的に連続し、人間の活動を制限しない空間をイメージした。

研修エリアの1・2階は、スロープによって連続したフロア構成となっている。「Studio」と呼ばれる研修スペースを中心に、あらゆる場所がオープンで連続的に使うことができる。お互いに研修の様子が見え、それぞれの活動がゆるやかに重なることで互いに誘発され、刺激し合える環境となっている。オープンなスペースには人が集まるためのきっかけとなる家具や仕掛けを随所につくり、あらゆる場所を研修やコミュニケーションに使うことができる。スロープ空間は、訪れた社員がインスピレーションを得るための展示スペースやメディアスペースにもなる。

3・4階は宿泊ゾーンであり、研修後の熱気もそのままに集える「マスターリビング」を太陽のホール上層に設け、吹き抜けで繋いでいる。マスターリビングから、学びを定着させるために、より小さな輪で語らえる6つの「CABIN」に分かれ、さらに就寝するための一人用のブースへと繋がる。

水のサロン3階に位置するレセプション「丹生庵」からは、山々の連なりや東大寺などを臨むことができ、古代奈良盆地に広がっていた大和湖の水平線を感じることができる。大きな時間軸を感じながら、未来に向けて大きなビジョンを描き、仲間とともに議論できる場となるよう考えた。

みらい価値共創センター「コトクリエ」と名付けられたこの施設が、地域にも開放され、未来を担う子どもたちへの教育的なサポートから地域企業、自治体との連携など、様々な人々がそれぞれの想いをもち寄れる、新しい時代の新しい人財づくりの共育・共創・共生の場となることを願っている。



心をつなぐ森の会所
 創業者ゆかりの地である奈良に全世界の大和ハウスグループ社員
 同士が集い、創業者と未来を語り、過去と未来をつなぐ、時間
 を超越した集まる会所をつくりまします。

○新たな研修センターの基盤となる「奈良 / 森 / 会所」



「森の会所」となる3つの環境と3つの和 Three Environment

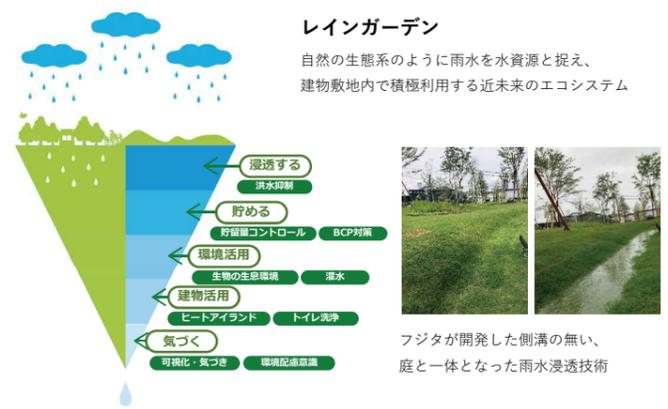
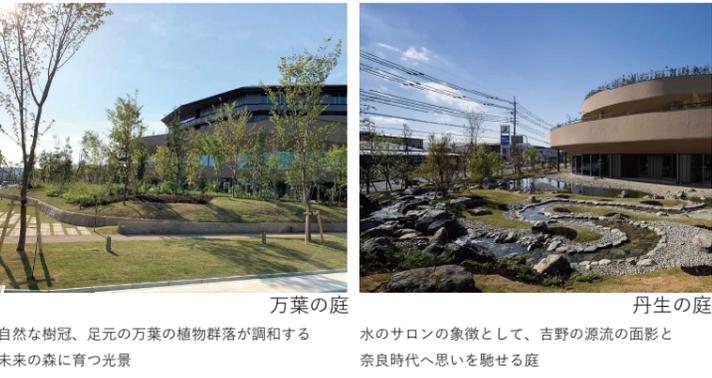


お互いを尊重し、誠意をもって励む
学びが重なり合う場としての**和**。
 多様なコミュニケーションに触れ
熱意を向上する場としての**和**。
 自然や環境の変化によって**創意**を磨く
思考と空間に行き止まりの無い**和**。



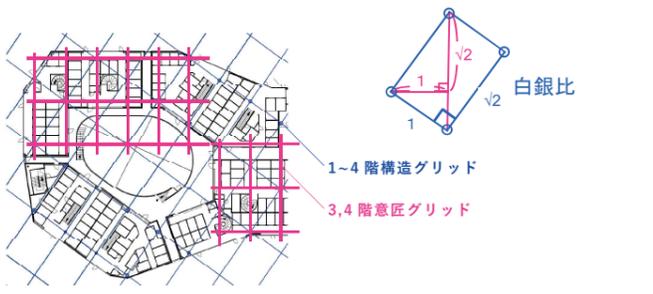
○ラインスケープ

大和路の情景を現代のランドスケープに盛り込む「大いなる和の風景」

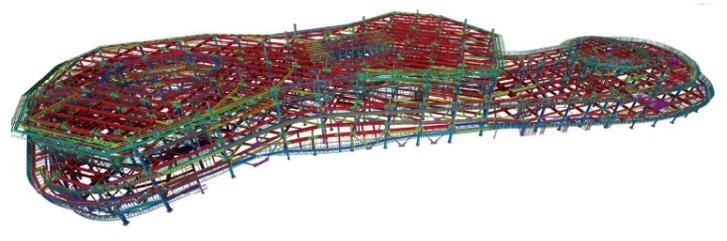


○構造とBIM

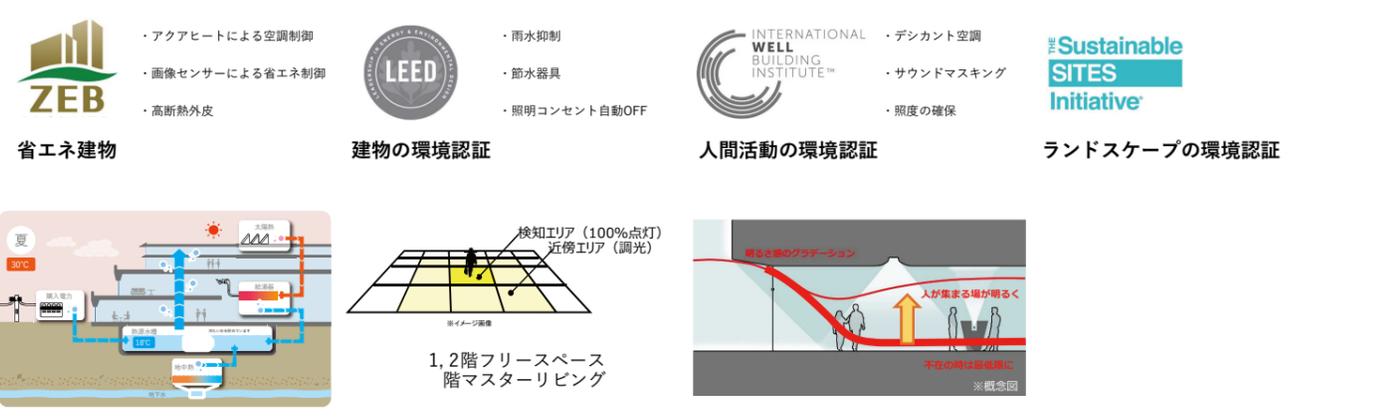
白銀比グリッド
 構造架構は奈良の歴史にも関連する白銀比（大和比）として知られる1:√2を用いることで、
多数の方向性でも直行グリッドを形成し、単純構造とした。



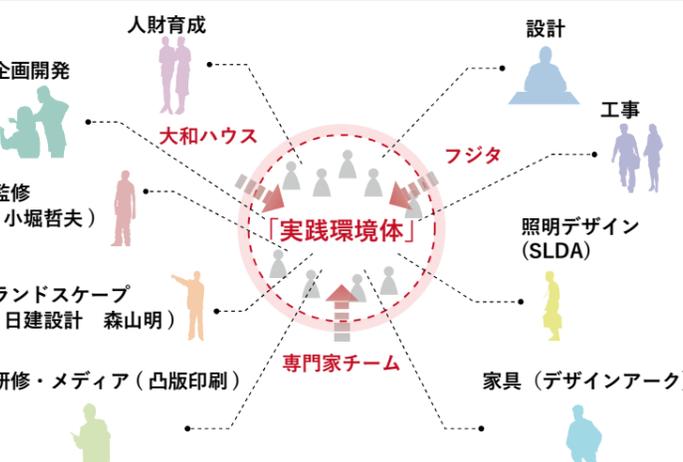
設計施工一貫BIM
 鉄骨において主架構に限らずマリオン受材・外壁胴縁・デザイン壁用胴縁をモデル化。本体鉄
骨との複雑な取り合いを製作可能とした。
 その他も、施工段階においてもBIMで入力することで、この複雑な建物を実現させた。



○4つの環境配慮格付けへの取り組み



○新奈良研修センター建設PJデザイン室の設置

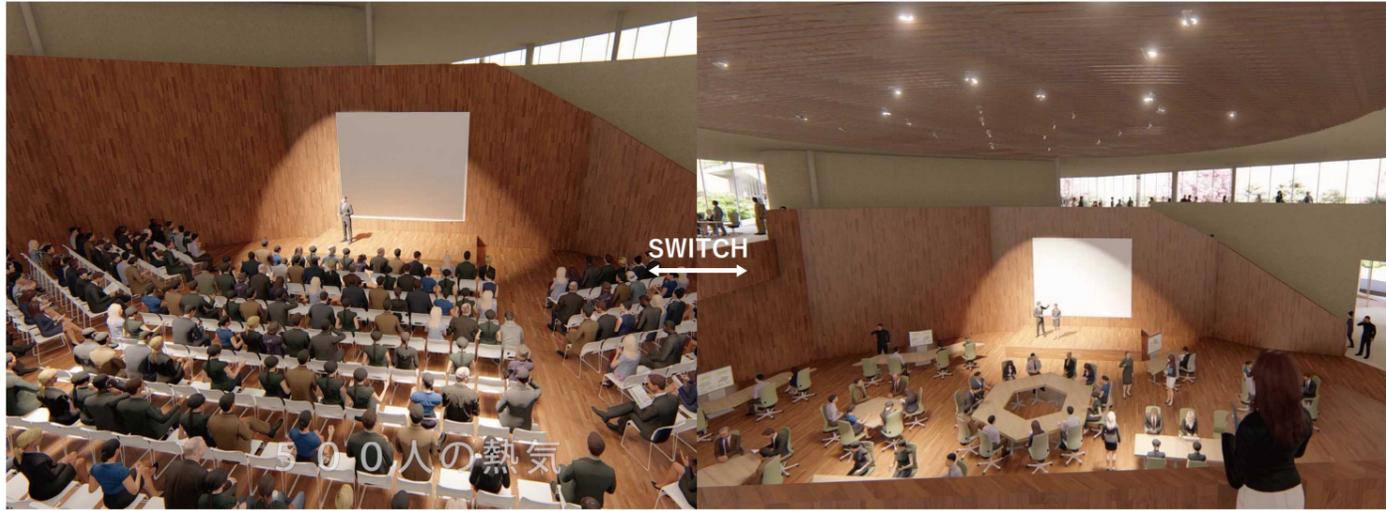


○概要

名称	大和ハウスグループ みらい価値共創センター
所在地	奈良県奈良市西九条町4-1-1
階数・構造	地上4階建 鉄骨造
敷地面積	18,251.37㎡
延床面積	16,656.95㎡
施設内容	研修施設、集会所、宿泊施設
設計期間	2017年10月 ~ 2019年6月
工事期間	2019年7月 ~ 2021年6月

01 オープンに参加が可能であり日の目を見る舞台「太陽のホール」

Sun Hall



太陽のホール (大討論会)

太陽のホール (グループ討論)

02 歴史がつながる大地が隆起したような建築

Architecture Concept



建築を取り巻く植物や地形が有機的に連続した外観



平城京調査時の敷地

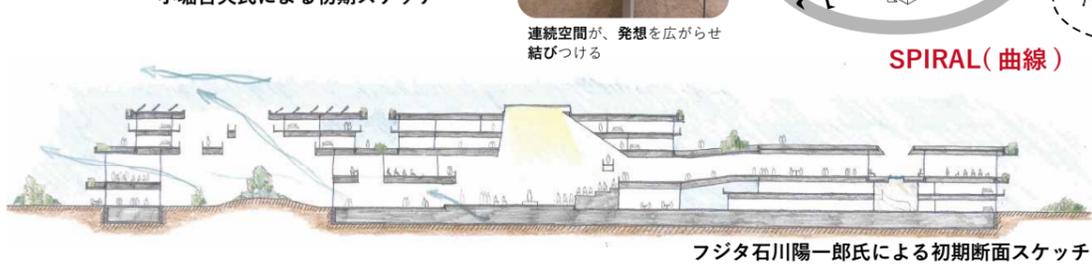
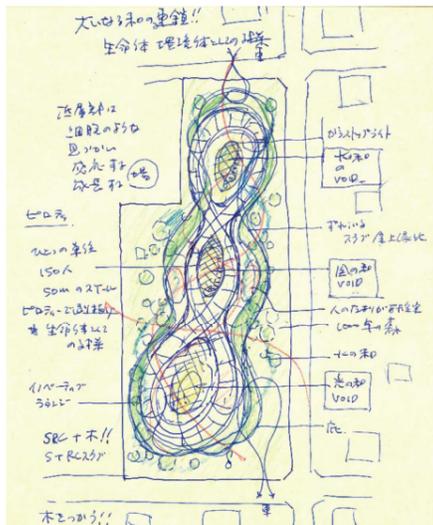
平城京の土で造った外壁

〇大地が奮起し立体化された建築



03 「活動 × 建築」に居場所を生み、全体が連続するように点在させた「家具 × 展示」

Activity



04 自然と集まりたくなる心地よい中庭「風のパーティオ」

Wind Patio



新鮮かつ心地よい風が気分を癒し豊かな創造力を育みます

05 現在・過去・未来と対話する会所「水のサロン」

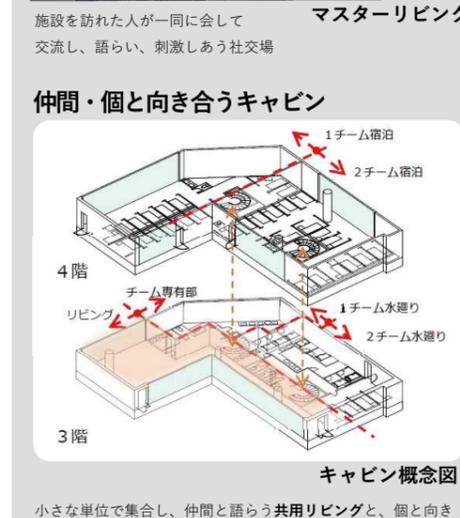
Water Salon



自分の'いま'を意識し対話する場

06 皆で集うリビングスペース

Stay Room



07 多様なアクティビティが点在する各階平面

Plan

